

News release

2022年3月8日
PwCコンサルティング合同会社

PwCコンサルティング、
「データマネタイゼーション実態調査 2022」を公開
データマネタイゼーションという取り組みを76%が認知しているが、
事業化に至ったのはそのうち9%
現時点でデータマネタイゼーションを未検討の方のうち89%が、
今後積極的に取り組みを推進していきたい意向を示す

PwCコンサルティング合同会社(東京都千代田区、代表執行役 CEO:大竹 伸明)は、本日、「データマネタイゼーション実態調査 2022」を公開しました。

近年、データマネタイゼーション(データを資産として活用し、事業活動に付加価値を創出するための活動)への関心は高まっており、その市場規模は2026年までに全世界で74.7億米ドルに達すると言われています^{*1}。しかし、データマネタイゼーションを実現できている企業は一部の大企業に限られており、日本企業におけるデータマネタイゼーションに対する取り組みの実態は明らかにされていませんでした。本調査は、データマネタイゼーションの認知度や検討状況、認識している課題や今後のデータマネタイゼーションへの取り組み意向などについて調査/分析したもので、521人の有効回答を得ました。

^{*1} Mordor Intelligence, 2020, Data Monetization Market - Growth, Trends, COVID-19 Impact, and Forecasts (2021 - 2026)

本調査結果によると、データマネタイゼーションという用語を耳にしたことがある、または内容を知っていると答えた方は全体の76%に達しましたが、事業化に至っていると答えた方はそのうち9%と極めて少数であることが分かりました。一方で、データマネタイゼーションの検討に着手できていないと回答した方の89%は、今後データマネタイゼーションの取り組みを積極的に推進していきたい意向であることが明らかになりました。また、データマネタイゼーションを推進する上では、データ利活用を推進する際の要となる組織体制の構築や社内人材のスキル育成などに加え、「マネタイズアイデアの創出」や「データ価値の評価」といったデータマネタイゼーション特有の課題にも対応する必要があることが分かりました。

「データマネタイゼーション実態調査 2022」主な調査結果

1. 76%は「データマネタイゼーション」という取り組みを認知しているが、実現に至っているのはそのうちわずか9%に留まる
「データマネタイゼーション」という用語を耳にしたことがある、または内容を知っていると答えた方は全体の76%に達しており、取り組みそのものはある一定の認知を得ていることが分かりました。しかし、事業化に至っているのはそのうちの9%と極めて少数でした。データマネタイゼーションへの関心はある一方で、具体的な検討に至ることができていない現状が明らかとなりました。

データマネタイゼーションという用語の認知について、教えてください。
「聞いたことがある」または「内容を知っている」方は、それらの自社における取り組み状況を教えてください。

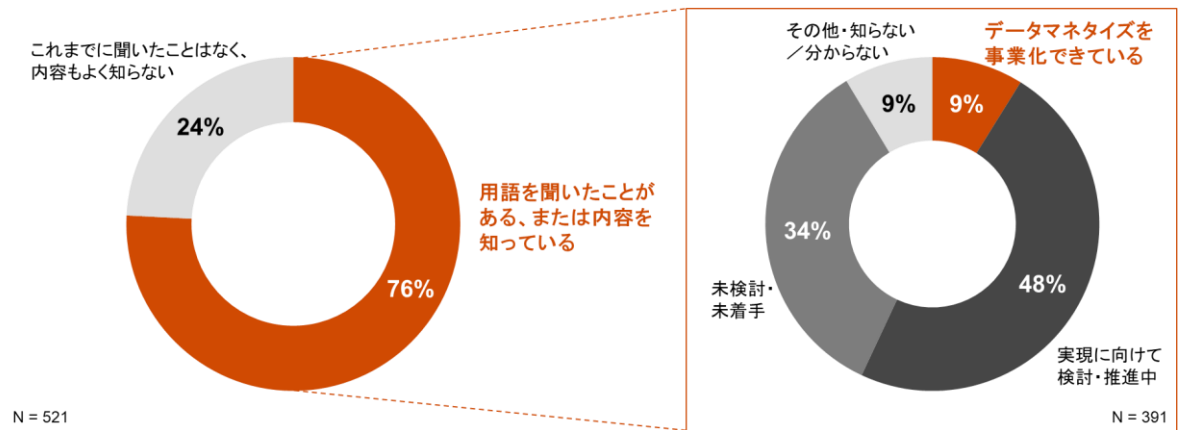


図 1. データマネタイゼーションの認知と取り組み状況

2. 現時点でデータマネタイゼーションに取り組めていない企業も、今後は積極的に検討していきたい意向

現時点でデータマネタイゼーションの検討に着手できていないと回答した方(136人)に対して、今後の検討意思を質問したところ、56.6%が「きっかけがあれば取り組みたい」、次いで 32.4%が「必要性を感じており、積極的に検討したい」と答えました。「今後も取り組む予定はない」と回答した方は 9.6%であり、現時点で検討に着手できていない企業も今後は前向きに検討していきたい意向であることが示されました。

「データマネタイゼーションを未着手・未検討」と回答した方にお伺いします。
今後のデータマネタイゼーションへの取り組み意思を教えてください。

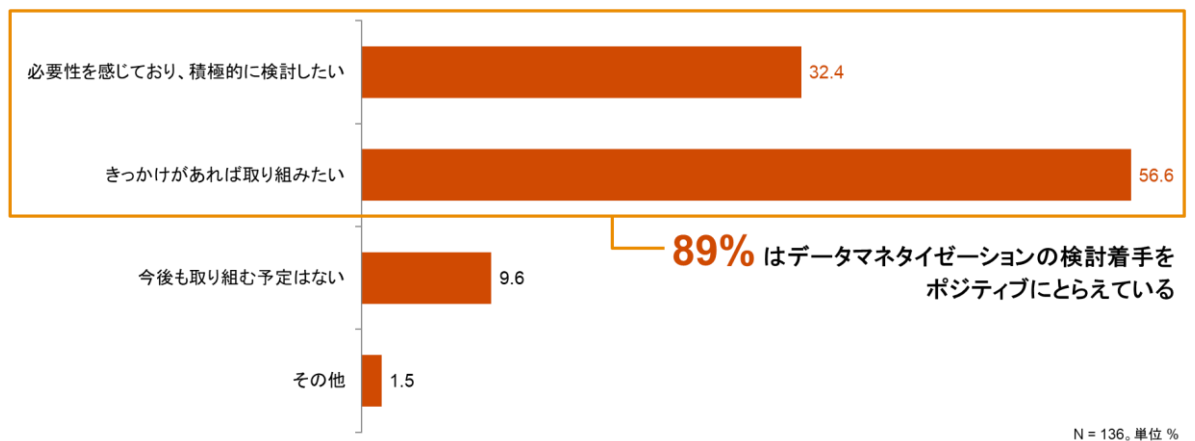


図 2. 今後のデータマネタイゼーションへの取り組み意思

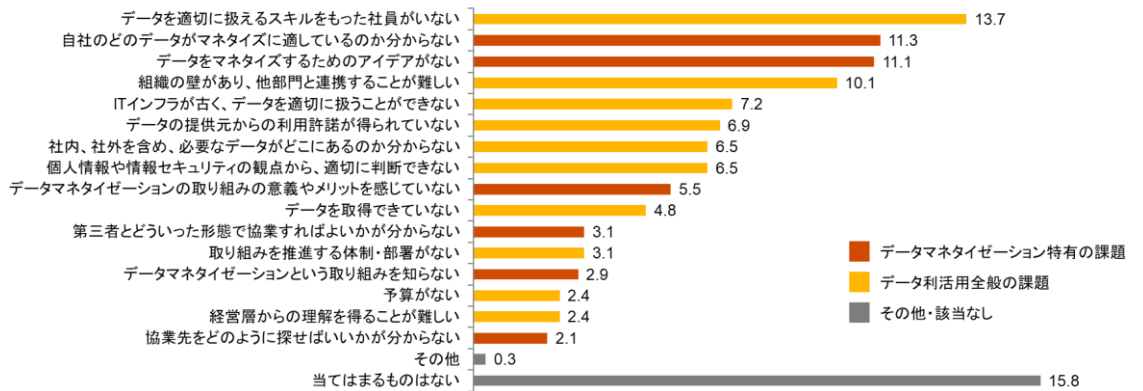
3. データマネタイゼーションの実現に向けては、データ利活用全般の課題に加え、データマネタイゼーション特有の課題をクリアする必要がある

既にデータマネタイゼーションの検討を開始している・または事業化できていると回答した方(225人)に対して、これまでに課題と認識した点について質問したところ、回答数を集めたのは以下 3 つでした。

- ・データを扱えるスキルを持った社員がいない ... 11.9%
- ・自社のどのデータがマネタイズに適しているのか分からない ... 9.8%
- ・データをマネタイズするためのアイデアがない ... 9.6%

データマネタイゼーションの取り組みを推進する上では、社員のスキル育成といったデータ利活用全般の課題だけでなく、データマネタイゼーション特有の「マネタイズアイデアの創出」や「データの価値の判断」といった課題をクリアする必要があることが示されました。

「データマネタイゼーションを実現できている」または「検討・推進中」と回答した方にお伺いします。
データマネタイゼーションに取り組む上で、現在または過去に課題だと感じたことを教えてください(上位3つ選択)



回答全体を100としたときの各回答の比率を記載。N = 225。単位 %

図 3. データマネタイゼーションに取り組む上での課題

「データマネタイゼーション実態調査 2022」概要

調査目的	企業におけるデータマネタイゼーションの認知・検討・実行状況と課題を把握する
調査方法	調査会社パネルを活用したインターネットモニター調査
調査期間	2021年12月15日(水)～12月17日(金)
調査対象	売上高500億円以上の企業に勤務しており、データマネタイゼーションに対する意思決定、方針検討、企画・検討・立ち上げ、情報収集・アドバイスをを行う立場の方
有効回答	521件
ダウンロード先URL	https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/data-monetization-survey2022.html

*図表は四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

PwCコンサルティングは、クライアントのデータマネタイゼーションを実現するためのソリューションである「データマネタイゼーション支援ソリューション」を提供しています。本ソリューションでは、目指すゴールと優先すべき観点に基づき、クライアントのデータマネタイゼーションを以下の4つの方向性に整理し、実現するためのアプローチならびに各種アセットを提供しています。

1. データの見える化による現状の把握
2. データの外部提供
3. データの高度分析によるインサイト発見
4. データ利活用による新規ビジネスの開発



企業が保有するデータのマネタイズポテンシャルのアセスメントや、実行計画の策定、プロジェクト実行の 3 ステップを通じて、データマネタイゼーションの実現を支援します。これにより、各社が陥りやすいデータマネタイゼーション特有の課題に対して効果的にアプローチし、クライアントのデータマネタイゼーション実現を支援します。

データマネタイゼーション支援ソリューションの詳細は以下をご覧ください。

<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/analytics/data-monetization.html>

以上

PwC コンサルティング合同会社について

 www.pwc.com/jp/consulting

PwC コンサルティング合同会社は、経営戦略の策定から実行まで総合的なコンサルティングサービスを提供しています。PwC グローバルネットワークと連携しながら、クライアントが直面する複雑で困難な経営課題の解決に取り組み、グローバル市場で競争力を高めることを支援します。

© 2022 PwC Consulting LLC. All rights reserved.

PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.